

福祉生活病院常任委員会資料

(平成27年2月2日)

〔件 名〕

1 メタンハイドレートの最新の調査状況について

(環境立県推進課)

生活環境部

メタンハイドレートの最新の調査状況について

平成27年2月2日
環境立県推進課

1 国の調査状況

平成25年度より3カ年で、国による日本海側のメタンハイドレート資源量調査が行われている。平成26年度には隠岐周辺、上越沖、秋田・山形沖及び日高沖で広域地質調査等を実施し、表層型メタンハイドレートの存在の可能性がある構造（ガスチムニー構造）が746箇所存在することを確認された。

また上越沖、秋田・山形沖の調査海域の3箇所では地質サンプル取得調査を行い、メタンハイドレートの存在を確認した。

2 県のメタンハイドレートの取組

県はその地理的優位性を活かし、人材の育成や調査環境の整備を通じて地域振興へと発展させるように以下の内容に取り組んでいる。

(1) 普及啓発

平成24年度よりメタンハイドレートに対する県民の認知を高める講演会を実施するなど「メタンハイドレート研究会」を設置し、県民への資源調査開発の理解と学生等に向けた講義等を通じて次世代を担う人材育成につなげる。

(2) 技術開発促進・人材育成

鳥取大学大学院にメタンハイドレートの調査、開発を担う高度技術者を育成するための寄附講座を開設する。

(3) 環境基礎調査促進

将来の環境影響評価の基礎データとするために、海洋定点観測を実施する。観測等とデータの整備と活用を行い、地元漁業者と情報の共有化を図る。

3 明治大学松本特任教授と県との関わり

松本特任教授は、東京大学時代からのメタンハイドレート研究の第一人者として、最先端の調査・研究成果により国調査のプロジェクトリーダーを務められている。また研究のみならず、平成24年に日本海沿岸の他府県とともに設立した「海洋エネルギー資源開発促進日本海連合」において地方での取り組み等をご指導いただき、鳥取県では平成25年2月の鳥取県議会エネルギー・雇用促進調査特別委員会への講義をはじめ、多岐にわたりご指導ご支援を頂いている。

(1) 講演や意見交換会への招聘

県内におけるメタンハイドレートの講演会や意見交換会の場で講義をいただき、実際の調査開発の現状やそこでの課題などをご教示ご指導頂いている。

(2) 人材育成への指導

鳥取大学大学院に開設を目指している寄附講座におけるカリキュラム作成や環境基礎調査などの取組検討に参加いただき、先生の広い学識・経験や人脈から貴重な意見を頂いている。

(3) 産学官連携の推進

明治大学と鳥取大学や鳥取県の三者連携など産学官連携の観点から、明治大学等の学術調査船(海鷹丸)に鳥取大学とともに鳥取県水産試験場研究員が参加できるようにご尽力を頂いた。

【参考】

松本良特任教授 略歴

- 1972年 東京大学理学部卒業 同 大学院理学系研究科(地質学専攻)進学
- 1974年 東京大学理学部助手
- 1985年 東京大学講師(理学部)
- 1990年 東京大学助教授(理学部)
- 1992年 東京大学教授(理学系研究科・地球惑星科学専攻)
- 2012年 東京大学名誉教授
明治大学 研究・知財戦略機構 特任教授

メタンハイドレートの最新の調査状況について

平成27年2月2日

報告者 明治大学ガスハイドレート研究所 松本 良 特任教授

- 1 メタンハイドレートの概要と資源化への期待
- 2 経済産業省「メタンハイドレート資源開発促進事業」の中での日本海ハイドレートプロジェクトの位置づけ
- 3 鳥取県沖に分布する表層型メタンハイドレートについて
- 4 鳥取県の取り組みへの期待
- 5 2015年度調査と今後の展望